



## 無題 2012102901

安藤 光

ボールペン、ケント紙

未知のものというのは脳にとっては多大なストレスであり、負荷を下げるため、既知のものに無意識に置き換えて当てはめようとする錯覚(パレイドリア現象)が生じる。

線や図形を描いていると次第に脳内にある経験の蓄積が上記の錯覚現象を起こす。

そのため画材による作者の意図と関係なく発現するインクの濃淡と、下書きやイメージを決めず、単純なパーツを組み合わせて描いていく手法をとることにより、制作行為がより作業的になり作者の意識・意図を介入させないように描く。

錯覚にとらわれた限定的なイメージを崩し、疑似的にはあるが、人間の制御や認知を超えた世界の法則を画面上に表せるのではと考え、模索した。